

【(仮称)豊中市文化芸術センター建設工事請負契約について】

(質問)

市議案第86号から市議案第89号の(仮称)豊中市文化芸術センターに関わる工事請負契約の締結について伺います。(仮称)文化芸術センターの建設工事については、本年2月28日公告、4月15日開札の日程で入札が行われました。特定建設工事共同企業体3者が入札されましたが、予定価格を上回る価格であったため3者とも失格となり、不調に終わりました。「入札が不調となった(仮称)文化芸術センターの本体工事については、関係部局と連携し、一部、設計内容の見直しを行った上で、改めての入札となる。」と5月定例会での一般質問で答弁がありましたが、前回の仕様と今回の仕様はどのように異なるのでしょうか。また、予定価格が前回は税込みで44億934万円、今回は47億6300万円と、予定価格の段階で約3億5000万円も増額されているのですが、何故、これほどまでに予定価格を増額されたのか教えてください。さらに、前回と今回のそれぞれの財源内訳を教えてください。

<答弁>

文化芸術センター建設工事については、第1回の入札において全ての参加者が、予定価格を2億6千万円から4億4千万円を上回る入札額であったため、不調となりました。その後の調査の結果、労務単価の高騰や物価変動への影響などが予想以上に大きく、また、この先、労務単価や物価が下落するという見通しが立たないことから、当初の予定価格での発注は困難と判断しました。前回の仕様と今回の仕様の違いについては、建物の外壁、小ホールの内壁、大ホールホワイエの天井の仕上げや、ギャラリーの展示ケースなど、ホールの基本性能に影響しない範囲で、減額変更を行ったものの、労務費及び資材費を最新の市場単価に置き換えた結果、予定価格がおよそ3億5千万円増額となりました。契約案件ごとの財源内訳と言う考え方はございませんが、工事費の総額については、今回の見直しとともに今後3年間の資材などの物価や労務費の上昇などの影響を考慮し、本定例会において財源も含め、継続費の補正について提案する予定としております。

(質問)

今回、予定価格を大幅に増額し、増額分のほぼ全てを起債で充当する、つまりは、子どもや孫の世代へのツケや負担を大幅に増やしてまで、建設を急ぐ判断はどなたが、誰のためを思ってされたものでしょうか。そもそも、どれだけの市民が、起債額を増やしてまで、(仮称)文化芸術センターの建設を何が何でも急いで欲しいと考えておられると思っているのでしょうか。私は、これまでも述べてきましたが、子どもや孫の世代にツケや負担を増やしてまで、建設を急ぐようなことはせず、少なくとも当初、予定していた予算内で事業を遂行するように仕様を見直すなり、建設スケジュールを見直しても良いのではないかと思いますし、そのように考えられる市民の方が多いと思っていますが、市の見解をお聞かせ下さい。さらに、入札結果表を見ると、電気設備や空調設備、給排水衛生設備など関連する他の工事の入札は、複数の事業者

が応札され、落札比率はどれも90%を下回る結果となっているにもかかわらず、建設工事だけは、一般競争入札にもかかわらず、応札者が1共同企業体しかなく、落札比率は99.86%と極めて高い結果となっています。前回、不調に終わった入札では、3つの共同企業体が応札され、仕様が今回と前回では異なりますが、今回の仕様よりもグレードの高い仕様ながら今回の落札金額よりも低い金額を入札されていた事業者もありました。今回の結果だけで判断すると、豊中市は非常に買い物下手とすることになりますが、何故、今回、このような入札結果になってしまったのか市の見解をお聞かせ下さい。もっと、歳出を抑える形での入札が出来たのではないかと思うのですが、市は、歳出を抑える工夫や努力をどのような形で行ってこられたのか、教えて下さい。

さらに、そもそも、このような高額かつ複雑な建設事業を受けられるJV(共同企業体)として受けられる市内業者がほとんどなく、入札不調が生じたり、入札に競争性が働かず、落札率が高止まりしたりする要因になっているということはないのでしょうか。市の見解をお聞かせ下さい。

<答弁>

資材、労務単価の高騰などにより当初の予算の範囲内での事業遂行は困難と判断し、今回、継続費を増額補正することになったが、市民会館が平成23年4月から既に2年以上休館しており、市には文化芸術センターの早期の建設を望まれている市民の声が届いております。今回、入札不調によりスケジュールが遅れていますが、出来る限り早期の開設に向けて取り組んでいきたい。予定価格を増額したにもかかわらず、入札者が1者のみで落札率が99.86%になったことについては、資材などの物価や労務費の上昇、約2年半という長期の工事で先行きへの不透明感がリスクとして懸念されたのではないかと考えています。歳出を抑える工夫について、設計内容の見直しにあたっては、外壁や内装などの仕様を見直し、工事費の抑制に努めましたが、資材や労務費などを最新の単価に置き換えを行った結果、予定価格が約3億5千万円増額となったものです。

(意見)

市内業者の育成は必要だと思いますし、JV方式による入札の実施やそれに伴い、価格が若干高くなってしまうことは致し方ないかとは思いますが、しかし、(仮称)豊中市文化芸術センターの整備事業については、担当部局が努力に努力を重ねられて、コスト削減をし、事業規模が70億円を切るところまでされたのに、ここにきて、あっさりと約9億円ものコストアップ、しかも、その財源のほとんどが借金で賄わなければならないことは、非常に残念でなりません。今後のためにも言わせてもらいますが、先ほど「市には文化芸術センターの早期の建設を望まれている市民の声が届いている、だから、早期の開設に向けて取り組んでいきたい」とご答弁されましたが、どれだけの市民が、起債額を増やしてまで、(仮称)文化芸術センターの建設を何が何でも急い

で欲しいと考えておられるのかとの質問には明確な答弁がありませんでした。と言うよりも、この件に関する厳密な市民意識調査はされていないと思います。現在の一部の市民のニーズや要望に応えようとされることを否定はしませんが、その代償として、多大な負担やツケを将来世代が背負うことになっていることにももっと考慮や配慮をして頂きたいと強く願います。

さらに市内業者の育成を目的にJV方式による発注を推進されていますが、今回のケースなどでは、入札に参加したかった市外の大手業者は少なからずおられたようですが、共同体を組むための市内業者がほとんどなかったのが現状のようで、つまりは、そもそも今回の建設事業を受注したいと思う市内業者がほとんどなく、市内業者の育成という効果よりも、入札不調や入札における競争性の低下、落札率の高止まりなどの弊害の方が大きかったのではないかと推察されます。是非とも、昨今の建設工事の入札不調の原因について厳密な調査をして頂きたいと思ひますし、JV発注のあり方についても検討して頂きたいと要望しておきます。